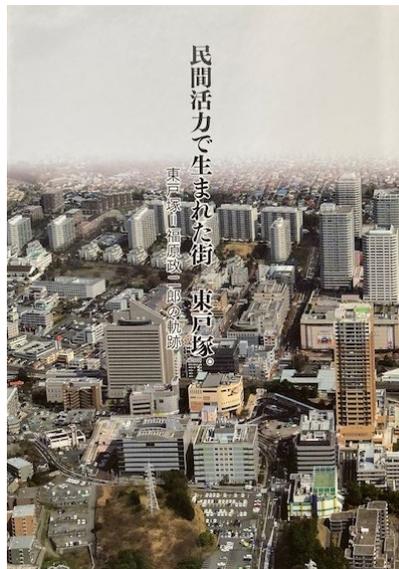


Q1 何故、「東の街1・2・3・4号館」には「ニューシティ東戸塚」という冠が付いているのでしょうか？

A

・現在、東戸塚駅の周辺は多くのマンションが林立し、正に21世紀の先端を行く街とっていいでしょう。しかし、開発前の品濃町は保土ヶ谷駅と戸塚駅に挟まれ、その間9kmもありながら駅がなかったため開発から全く見放され、丘陵と旧東海道に囲まれた袋小路の姿は「陸の孤島」といってよく、そんなことから「横浜のチベット」と言われていたそうです。

・そのような「陸の孤島」を、駅を核とした都市開発という視点で「新しい街、東戸塚」へと開発した男が福原政二郎でした。右に掲げた『民間活力で生まれた街 東戸塚。』と題する本は、第一開発興業株式会社街づくり編集室が発行した福原の軌跡を記録した本です。



・福原は「東戸塚総合開発計画」を推進するに当たって土地区画整理事業を採用しましたが、このことを、この本は「全国でもほとんど例を見ない、民活主導の区画整理方式による壮大なプロジェクト、「東戸塚総合開発計画」と記しています。

・東戸塚総合開発計画は1964（昭和39）年に策定され、土地区画整理事業はこの地を6つの地区に分け、順々に実施されていきました。中でも新しい街・「ニューシティ東戸塚」が展開することになる「品濃中央地区」は東戸塚総合開発計画の中核部分であり、施行面積は59.16haと6地区の中で最大でした。1970年に起工し、1982年に完了しましたが、この間の1980年10月には待望の東戸塚駅が開業し、それを受ける形で、翌1981年には「ニューシティ東戸塚」の起工式が行われました。

・私達の「東の街1・2・3・4号館」は1984年に竣工しましたが、「ニューシティ東戸塚」の一街区であることを表わすため、頭に「ニューシティ東戸塚」という冠が付けられました。こうした街区は「東の街」を含め全体で13を数えます。

・ところで、この「ニューシティ東戸塚」という言葉は確かに「新しい街」を意味していますが、しかし、その言葉の裏には、93年もの長い間駅のない生活を強いられた品濃町住民の「悲哀」と、大々的に土地区画整理事業を主導した福原という一人の男の「情熱」が隠されていることを忘れてはならないと思います。